

夢咲かせよう 立志の丘で

平成26年6月12日
No.10

平成26年度 大曲仙北中学校総合体育大会 組合せ 決まる

6月6日(金)、標記の件について大曲中学校にて各部会が開催されました。その組合わせ結果についてお知らせします。

◎ 第80回記念全県少年野球大会

大曲仙北地区予選大会 第3地区 神岡球場

1日目 6月20日(金)

第1試合 10:00 平和一南外

第2試合 12:30 協和一西仙北

2日目 6月21日(土)

決勝 10:00

◎ バレーボール(女子) サンスポーツランド協和 体育館

Cゾーン 協和, 大曲西, 西仙北, 西明寺

1日目 6月20日(金)

第4試合 12:40~ 西仙北一西明寺

第6試合 14:40~ 協和一西仙北

2日目 6月21日(土)

第5試合 13:30~ 大曲西一西仙北

3日目 決勝トーナメント

◎ バスケットボール(男子) 美郷中学校体育館

1日目 6月20日(金)

第2試合 10:15 西仙北一平和

2日目 6月21日(土)

第3試合 11:30 西仙北一中仙

3日目 決勝リーグ

◎ ソフトテニス(女子) 大仙市営テニスコート

1日目 6月20日(金)

団体戦 1豊成 2西仙北 3中仙で予選リーグ

決勝トーナメント 9時開始

2日目 6月21日(土) 個人戦 8時半開始

3日目 6月22日(日) 個人戦 9時開始

◎ ソフトテニス(男子スポ少)

2日目 6月21日(土) 個人戦

3日目 6月22日(日) 個人戦

◎ 卓球(男子)

1日目 6月20日(金) 美郷総合体育館リリオス

団体戦 ①大曲南 ②西仙北 ③豊成 ④太田

対戦順 ①-④ ②-③ 10時15分開始

①-③ ②-④

①-② ③-④

個人戦

2日目 6月21日(土) 個人戦・団体戦決勝リーグ

3日目 6月22日(日) 個人戦 2・3日目9時40分開始

◎ バドミントン

1日目 6月21日(土) 大曲体育館

団体戦 男子 3校リーグ戦

10:00 美郷一西仙北

11:00 西仙北一大曲

12:00 大曲一美郷

13:00 個人戦

女子 4校トーナメント

10:30 大曲一西仙北 美郷一平和

11:30 決勝 3位決定戦

13:00 個人戦

2日目 6月21日(日) 個人戦

◎ 柔道(男子スポ少1名)ふれあい体育館

1日目 6月21日(土)

団体戦 Bチーム(美郷中と合同)

2日目 6月22日(日) 個人戦

※両日とも10時開始

◎ 剣道(男子スポ少2, 女子スポ少1)大曲中体育館

1日目 6月21日(土) 個人戦9時50分

2日目 6月22日(日) 団体戦9時10分

交流戦 男子(生保内, 角館, 西仙北合同)

女子(大曲, 大曲南, 美郷, 西仙北合同)

地域の皆様の応援方よろしくお願ひいたします。

全校朝定例集会

今週のお題は「郡市総体でがんばりたいこと」です。各学級の代表が発表してくれましたので、紹介します。

◇3年生

A組 伊藤柊さん

郡総体でがんばりたいことは、チームのみならず一丸になって全県に行きたいと思っています。残り短い期間での練習で、どれだけ練習をがんばれるか努力していきたいです。

B組 鈴木秀人さん

僕が郡総体でがんばりたいことは、カットインです。僕はロングシュートなどは苦手なので、カットインでどんどん攻めていきたいです。チームの目標は、相手チームに走り勝つことです。どのチームより走り勝ちたいです。そのためには自分が一番走りたいと思います。

C組 井上大貴さん

僕が郡総体でがんばりたいことは個人戦です。個人戦ではベスト16まで残って全県に行けるように日々の練習をがんばって、少しでも強くなれるようにしたいです。団体戦でも、全県に行けるように、チームでもっと声を出してがんばりたいです。

◇2年生

A組 田村愛美さん

私が今回の郡総体でがんばりたいことは、環境づくりと声出しです。声出しでは、コートの上の選手を支えられるように、応援していきたいです。環境づくりでは、練習がしっかりと効率よくすすめていけるようにしたいです。私は、今回の郡総体では、コートの上で立ってプレイする選手ではないと思います。コートの脇から選手を支えられるよう、自分でできる限りのことをやっていきたいです。

B組 伊藤陽介さん

今回の郡総体でがんばりたいことは、一年間やってきた練習の成果をしっかりと出すことです。春季大会では、自分の思うように試合ができな



ったので、今回の郡総体では、力を精一杯発揮できるようにがんばりたいです。3年生は、今回の郡総体が最後なので、悔いが残らないよう、応援などをしっかりやりたいです。

◇1年生

A組 後藤明華さん

私が今回の郡総体でがんばりたいことは、声出します。コートの上にいる先輩たちに聞こえるような大きな声で応援したいです。また、練習がスムーズにいくように、先輩たちをサポートしていきたいです。

B組 佐藤愛美さん

私が郡総体でがんばりたいことは、今できることを精一杯やることです。一緒に試合をするペアの人に声を掛け合って、元気にプレイできるようにしたいです。初めての大会で緊張するかと思いますが、残り少ない時間を大切に使い、練習していきたいです。

発表後に、三人の生徒から感想発表がありました。

◇3年C組 後藤杏樹さん

皆さんの発表を聞いて、私も郡総体への目標があるので、その目標に向かって、今できることを精一杯がんばりたいと思いました。

◇2年A組 田口輝さん

昨日、キャプテンからの指示で、声を出そうということだったので、全体的には、もっと声を出して、個人的には団体戦メンバーに出ているという誇りをもってがんばりたいです。

◇1年B組 佐々木克彬さん

みんな、それぞれの目標をもって、それに向かって取り組んでいたのですごいと思いました。自分も、自分の目標に向かって、がんばっていきたいと思いました。

心に響く小さな5つの物語から

図書室に藤尾秀昭 文の「心に響く小さな5つの物語」(致知出版社)が入りました。その中の第二話を紹介します。心打たれるお話です。

第二話 「喜怒哀楽の人間学」

少年は両親の愛情をいっぱいを受けて育てられた。殊(こと)に母親の溺愛(できあい)は近所の物笑いの種になるほどだった。

その母親が姿を消した。庭に造られた粗末な離れ。そこに籠(こ)もったのである。結核(けっかく)を病(や)んだのだった。

近寄るなど周りは注意したが、母恋(もれい)しさに少年は離れ(りれ)に近寄(きよ)らずにはいられなかった。

しかし、母親は一変(いちへん)していた。

少年を見ると、ありったけの罵声(ののし)を浴びせた。コップ、お盆、手鏡(てがた)と手当たり次第(しだい)に投げつける。

青ざめた顔。長く乱れた髪。荒れ狂(あ)う姿は鬼(おに)だった。

少年は次第(しだい)に母を憎悪(そうお)するようになった。哀(あ)いしみに彩(いろ)りどられた憎悪(そうお)だった。

少年六歳の誕生日(たんじゆうび)に母は逝(い)った

「お母さんにお花を」

と勧(すす)める家政婦(けいさふ)のオバサンに、少年は全身(ぜんしん)で逆(さか)らい、決して柩(ひつぎ)の中(なか)を見ようとはしなかった。

父(ちち)は再婚(さいこん)した。少年(せうねん)は新しい母(はは)に愛(あい)されようとした。だが、だめだった。父(ちち)と義母(ぎぼ)の間(ま)に子ども(こども)が生まれ、少年(せうねん)はのけ者(のけもの)になる。

少年(せうねん)が九歳(くさい)になって程(ほど)なく、父(ちち)が亡(な)くなった。やはり結核(けっかく)だった。

その頃(ころ)から少年(せうねん)の家出(いっしゅ)が始まる。公園(こうえん)やお寺(おてら)が寝場所(ねばしょ)だった。公衆電話(こうしゅうでんわ)のボックスで体(てい)を二つ折(ふたつお)りにして寝た(ね)こともある。そのたび(たび)に警察(けいさつ)に保護(ほご)された。

何度(なんど)目(め)かの家出(いっしゅ)の時(とき)、義母(ぎぼ)は父(ちち)が残(のこ)したものを処分(しゅぶん)し、家(いへ)をたたんで蒸発(じょうはつ)した。それからの少年(せうねん)は施設(しせつ)を転々(てんてん)とするようになる。

十三歳(じゅうさんさい)の時(とき)だった。少年(せうねん)は知多半島(ちまたはんしま)の少年院(せうねんいん)にいた。もういっばし(いっばし)の「札付(ふだつき)」だった。

ある日(あるひ)、少年(せうねん)に奇蹟(きせき)の面会者(めんかいしや)が現(あ)れた。泣(な)いて少年(せうねん)に柩(ひつぎ)の中(なか)の母(はは)を見せようとした。あの家政婦(けいさふ)のオバサン(おばさん)だった。

オバサン(おばさん)はなぜ母(はは)が鬼(おに)になったのか(なに)を話(わ)した。死(し)の床(とこ)で母(はは)はオバサン(おばさん)に言(い)ったのだ。

「私は間(ま)もなく死(し)にます。あの子(こ)は母(はは)を失(な)うのです。幼(よ)い子(こ)が母(はは)と別(わか)れて悲(かな)しむのは、優(やさ)しく愛(あい)された記憶(きおく)があるからです。憎(にく)ましい母(はは)なら死(し)んでも悲(かな)しまないでしょう。あの子(こ)が新しいお母(はは)さんに可愛(かわい)がってもら(もら)うため(ため)には、死(し)んだ母(はは)をなん(なん)か憎(にく)ませてお(お)いたほう(ほう)がいいのです。そのほう(ほう)があの子(こ)は幸(さい)せになれるのです」

少年(せうねん)は話(わ)を聞(き)いて呆然(ぼうぜん)とした。自分(じぶん)はこんな(こんな)に愛(あい)されてきたのか。涙(なみだ)がとめどもなくこぼれ落ちた。札付(ふだつき)が立(た)ち直(ただ)ったのはそれ(それ)からである。

作家(さか)・西村(にしむら) 滋(し)さんの少年期(せうねんき)の話(わ)である。

喜怒哀楽(きげいらく)に満(み)ちているのが人生(じんせい)である。

喜怒哀楽(きげいらく)に彩(いろ)られたこと(こと)が次々(つぎつぎ)に起(お)こるのが人生(じんせい)である。だが、その表面(ひょうめん)だけ(だけ)を掬(すく)い取り、手放(てはな)して受け止(と)めてはなるまい。喜怒哀楽(きげいらく)の向(む)こうにあるもの(もの)に思(おも)いを馳(は)せつつ、人生(じんせい)を歩(あ)みたいもの(もの)である。その時(とき)、人生(じんせい)は一層(いっしやう)の深(ふか)みを増(ぞ)すだろう。われわれ(われわれ)が人間学(にんげんがく)を学(まな)ぶ所以(ゆえん)もそこにある。

なかえとうじゆ 中江藤樹(なかえとうじゆ)の言葉(ことば)がある。

「順境(じゆんきやう)に居(い)ても安(やす)んじ、逆境(ぎやうきやう)に居(い)ても安(やす)んじ、常に拍蕩(たんとう)々(たんと)として苦(くる)しめる処(ところ)なし。これを真楽(しんらく)というなり。萬(よろず)の苦(くる)を離(はな)れてこの真楽(しんらく)を得(と)るを学問(がくもん)のめあてとす」